様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25　年　5　月　28　日現在

機関番号：34513
研究種目：基盤Ｃ　一般
研究期間：H22　～H24
課題番号：22520280
研究課題名（和文）アイルランド独立期におけるアイデンティティ確立への模索と二言語文学の関わりの研究
研究課題名（英文）　The Study of Irish Identity and Irish Language Literature during the Early Years of Irish Independence

研究代表者 春木　孝子　（HARUKI TAKAKO）
神戸松蔭女子学院大学・文学部・教授
研究者番号：80228668

研究成果の概要（和文）：「リアム・オフラハティのアイルランド語短編小説に見る国家と個人のアイデンティティ」と題する論文にまとめて、大学の紀要に発表した。これは独立国としてアイルランド語を公用語とすることを選択したアイルランドの歴史的背景とアイルランド語を母語とするオフラハティという小説家のアイデンティティ模索の関わり合いを３年間研究した成果である。
研究成果の概要（英文）：The three-year research is resulted in the essay written under the title 'Liam O'Flaherty's Short Stories in Irish and Irish Identity' and is published in Journal of the Faculty of Letter, Kobe Shoin Women's University. The essay is an effort to shed light on, first, the establishment of Irish national identity during the early years of Irish Independence and on the personal struggle of an Irish language native speaker novelist, Liam O'Flaherty, in search of identity, and then on the relationship between the nation and an individual.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	500,000	150,000	650,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	400,000	120,000	520,000
年度			
年度			
総　計	1400,000	420,000	1820,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・英米・英語圏文学
キーワード：(1)　アイルランド語　(2) 二重言語文学　(3) 独立期　(4)アイデンティティ

１．研究開始当初の背景

19 世紀後半のアイルランド文芸復興運動はアイルランド語による自国文化をアイルランド人のアイデンティティの核とすることで、支配国イギリスからの独立のきっかけとなる 1916 年の復活祭蜂起を導いた。しかしながら 1921 年のアイルランド自由国の建国後、1939 年にアイルランド共和国として正式に新しい国家が発足するまでに、北の六県の帰属をめぐって国を二分する激しい内戦が続いた。

1916 年から 1921 年の時代については

数多くの研究がなされているにもかかわらず、この内戦の間の歴史については最近まであまり研究がなされていない。支配者対被支配者という理解可能な構図ではなく、「血縁の争い」、「兄弟対兄弟の争い」と表現されるような自国民間の争いは、アイルランド人にとって、内戦は独立への歴史においてトラウマとなり、タブー視される経験として残っているのである。

また、アイルランド文芸復興運動の高まりが独立への道を作ったのであるが、この時期、実際にアイルランド語で書かれた文学作品は少ない。オヂローィンを初めとして 1940 年代になってアイルランド語で詩を書いた現代アイルランド語詩人にとって模範とすべき先駆者はいなかったのである。この事実は、例えば、熱烈な共和国主義者で実際に復活祭蜂起にも参加したアイルランド語使用地域出身のリアム・オフラハティが、なぜアイルランド語ではなく英語でしか小説を書かなかったのかといった問題提起を促す。

申請者は、今まで現代アイルランド詩およびアイルランド語詩の通史的な研究と、英語で書かれたアイルランド現代小説の研究をしてきており、さらなる研究の遂行にあたって、この 1921 年から 1939 年という時期の研究は大きな意義を持つものであるという認識に至った。

この認識はアイルランドにおける学術的な流れにも見いだされる。1990 年代の終わり頃から *The Irish Counter-Revolution 1921-1936, The Two Irelands 1912-1939* など歴史書のみならず、経験者の記録 *Brother Against Brother* などが出版されるようになっているからである。さらに、2009 年には、*The Irish Literary Periodicals 1923-1958* の出版でこの時期の定期出版物が俯瞰できるようになったし、音楽の世界でも *Music in Irish Cultural History* が新たな歴史を作った。また、2000 年出版の *Locating Irish Folklore---Tradition, Modernity, Identity* や 2006 年出版の *Women of the Dáil---Gender, Republicanism and the Anglo-Irish Treaty* など、個別的、局地的視点からまさにこの時代を取り上げたものが散見されるようになった。しかし、日本においてはこの認識はまだ共有されていない。

本研究は、文学研究の立場からこの特定の時期に英語で書かれた詩や小説、劇、歌詞なども文学作品として捉えて研究対象として、アイデンティティ確立の模索への関わりを考察するとともに、さらには、アイルランド語で書かれた作品にも注目し、マイノリティー言語がどのようにして真にアイデンティティの核となるかを検証しようとするものである。

２．研究の目的

英語とアイルランド語という二重言語使用国家としての 1921 年から 1939 年までのいわゆる「アイルランド自由独立国」の時代に、アイルランドとしてのアイデンティティ確立を模索するにあたり、それぞれの言語の文学がどのような関わりをもったか、そして、アイルランド語文学がどのような形でアイデンティティ確立に寄与したかを検証することにある。すなわちアイルランドという二重言語国家の特定の時代における文学に焦点をあてて、アイルランド人という個別的なアイデンティティ確立の特徴を明らかにするとともに、そこに見られる普遍的特徴を解明することを目的とする。

３．研究の方法

アイルランドにおける 1921 年から 1939 年という時代の歴史上と文学上の位置づけを行うこと。また、個別的には、リアム・オフラハティの小説で描かれる人物たちは多くが1921年から1939年という時代背景の中で様々な鬱屈を抱えた姿で描かれていることを踏まえ、これらの人物を通して個別的なアイデンティティ確立の様子を検証していく。また、アイルランド語のネイティブであり、第一次世界大戦において兵士であったオフラハティのアイルランドという国やアイルランド語に対する意識とアイルランド語による作品を時代の背景との関連において国家や個人のアイデンティティという問題を検討する。

また、アイルランド語力の促進も継続し、これまで以上に京都アイルランド語研究会のプロジェクトに積極的に参加貢献する。特に、十八世紀の詩人メリマン研究のプロジェクトにおいては、日本語訳の中心メンバーとなり、さらに語彙集作成に取り組む。。この研究会においては、研究目的遂行のために他の研究者たちとより緊密な研究協力関係を継続し、情報の交換をする。

４．研究成果

アイルランドにおける 1921 年から 1939 年という時代の歴史上と文学上の位置づけを行うために、ダブリンの国立図書館、トリニティ・カレッジ図書館に加えて、コーク大学図書館で精力的に資料集めを行った。

その成果として、2013 年 3 月神戸松蔭女子学院大学研究紀要に論文を発表した。

アイルランド語ネイティブである小説家リアム・オフラハティの唯一のアイルランド語短編小説集 *Dúil*(『渇望』、1951)を研究対象とすることで、一つの興味深い立場にあるアイルランド人小説家の観点からのアイルランド独立期の二重言語政策と国家と個人のアイデンティティに関わる問題に切り込むことができた。具体的には、『渇望』に収められた短編の初出年代が 1925 年のグループと 1940，50 年代というグループの二つのグループに分かれているのであるが、この二つの時期を通して、英語での作品は制作意欲が衰えることのなかったオフラハティがアイルランド語作品を出版しなかったという事実を、国家の変革期におけるアイデンティティの柱とされたアイルランド語と英語の二重言語政策との関係で論じた。ネイティブであり、政治的でもあったオフラハティの手紙、The Dublin Magazine 紙への投稿記事、新聞のインタビューなどの発言を裏付けとして、この点を検証した。また、アイルランド語が母国語であるオフラハティのアイルランド語による作品が英語による作品と比べて格段に少ないという事実もその裏にある理由を論じて個人と国家のアイデンティティに関わる考察に重要な一石を投じた。

さらに、アイルランド語力の促進を図り、これまで以上に京都アイルランド語研究会のプロジェクトに積極的に参加貢献した。特に、十八世紀の詩人メリマン研究のプロジェクトにおいては、日本語訳の最終メンバーとなり、また語彙集の土台を完成させた。この研究会においては、研究目的遂行のために他の研究者たちとより緊密な研究協力関係を継続し、情報の交換を継続した。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）春木孝子、リアム・オフラハティのアイルランド語短編小説に見る国家と個人のアイデンティティ、*Journal of the Faculty of Letters*, Kobe

Shoin Women's University, 査読無、No. 2, March, 2013, 1-18.

〔学会発表〕（計　件）

〔図書〕（計　件）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

６．研究組織
(1)研究代表者
春木　孝子（HARUKI TAKAKO）
神戸松蔭女子学院大学・文学部・教授
研究者番号：80228668

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
（　　）

研究者番号：